

# RPJ News

2022年 5月号

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

E-mail [ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp](mailto:ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp)

## 内容

### \* 第1回 Web セミナー「仕事づくり」(2)

#### 2. わたしたちの職場づくり

エスポアール出雲クリニック 形部 周平

#### 3. Passion ～適切に始める～

尾道のぞみ会 森川 尚子

### \* 事務局からのお知らせ

○ 第2回 Web セミナーのお知らせ

○ 2022年度会費納入のお願い

### \* 第1回 Web セミナー「仕事づくり」(2)

#### 2. わたしたちの職場づくり

エスポアール出雲クリニック 形部 周平

エスポアール出雲クリニックで精神保健福祉士をしております形部といいます。どうぞ宜しくお願いします。

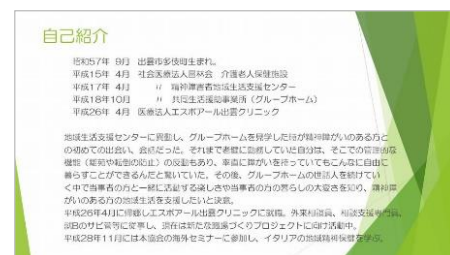
簡単ですが自己紹介しますと、元々僕はおばあちゃん子でありまして介護の仕事を目指しました。平成15年、20歳の時に介護福祉士の資格を持って社会医療法人昌林会の老健に就職しました。その2年後に精神障害者の地域生活支援センターに異動になりまして、そこで初めての精神障害のある方と出会いました。

それまで老健に勤務していた私は障害を持たれている方でもこんなに自由に暮らすことができるのだと驚いたのを覚えております。

その後はグループホームの世話人を続けまして、当事者の方と一緒に活動する楽しさや暮らしの大変さを知り、精神障害のある方の生活を支援したいと決意いたしました。

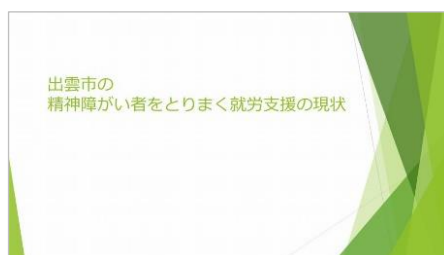
そこから精神保健福祉士の資格を取得しました。

平成26年の4月にご縁がありまして、エスポアール出雲クリニックに就職して、外来の相談員や相談支援専門員、就労継続支援B型のサビ管も従事しましたが、今はひたすら職場づくりプロジェクトで活動しております。促進協会の方では、平成28年の11月にイタリアの海外セミナーに参加させて頂いて、地域精神保健を学ばせていただきました。



それでは始めます。

私たちの職場づくりという  
ことで、少し出雲市の状況を  
簡単にご説明しますと、  
総人口は少し古いデータで  
すが令和元年の総人口が



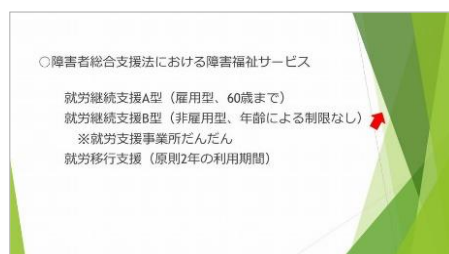
出雲市の総人口及び障害者手帳所持者の状況

○令和元年度

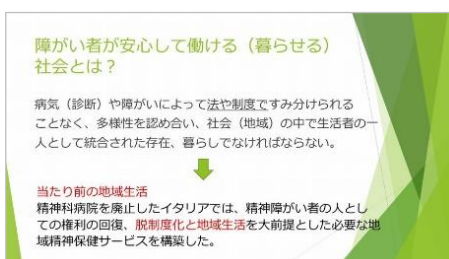
- ・総人口 174,790人
- ・障害者手帳所持者 10,794人
  - 身体 7,343人
  - 知的 1,687人
  - 精神 1,764人

※およそ、17人に1人は手帳を所持している

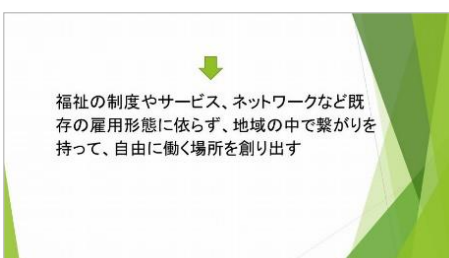
で来ておりますが、そのうち手帳を持っておられる方は1万人で、  
およそ17人に1人は手帳を所持しているような状況があります。  
そのなかで精神の手帳を持っているのが1764人でおよそ100人に  
1人は精神の手帳を持っておられるということになります。



出雲市ではここ最近就労継続支援 B 型がどんどん増えており、  
相談員として関わりますと、これまでその様なことをしてこられな  
かった企業とか事業所が参入しておられるというのが凄く印象に  
あります。その様な状況は今も変わらず続いております。



確かに選択肢は増えたのですが、障害者が安心して暮らせる  
社会とはどういうことか、それは病気診断や障害によって法や制  
度ですみ分けられることなく、多様性を認め合い社会の中で生活  
者の一人として統合された存在、暮らしでなければならない、とい  
うことだと思います。イタリアに行かせて頂いた時、脱制度化と地  
域生活を大前提とした取り組みを知りましたが、日本の場合は脱  
制度化というよりは制度をどんどん作って整理して、障害者の方  
はそこで暮らすような、働くような枠組みが作られているのが現状  
です。



そこで私たちは福祉の制度やサービス、ネットワークなど既存の  
雇用形態に依らず、地域の中で繋がりを持って自由に働く場所  
を創り出したい、と考えました。

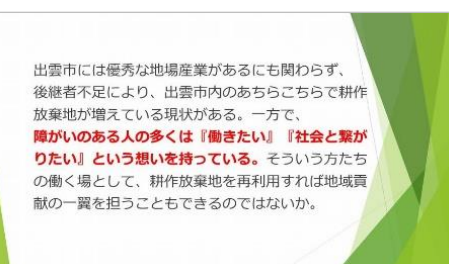
それがエスポアールファームです。

農業を中心とした職場づくりを目指しておりますので、既に耕作を  
放棄した荒畑（ハウスが残っていたり雑草が凄いところ）を借りて  
始めようと考えたところです。

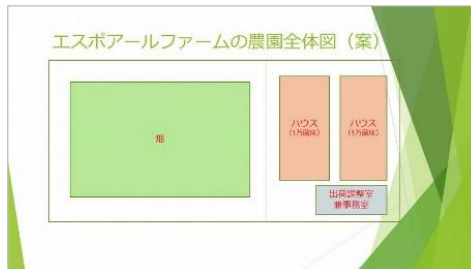


出雲市は優秀な地場産業があるにもかかわらず、これはブドウ  
の事なのですが、後継者不足により耕作放棄地が増えている現  
状があります。その一方で、障害のある人の多くは「働きたい」「社会と繋がりたい」という思いを持っておられます。そういう方たちの働く場として、耕作放棄地を再利用すれば地域貢献の一翼を担うこともできるのではないかと考えました。

現在、ハウスは全て自分たちの手で解体撤去を済ませまして、更地のような状態になっております。エスポアールファームの農園の初期構想としましては、RPJNewsにも



書かせていただきましたが、菌床しいたけの栽培を始める計画をしており、1万菌床のハウス2棟で、半年で入れ替えますので年間4万菌床を栽培する予定です。



これはエスポアールファームの軸になる仕事とっております。空いている土地で畑作を考えておりますが、いずれかは、夢のあるものを栽培してエスポアールとしてのブランド品ができれば良いと思っております。

開始の時期なのですが、現在、補助金の申請をしております、およそ今年の秋頃になる予定です。菌床しいたけは先ほども申しましたが、年間4万菌床を栽培しまして年間では約50トンの収量を目指します。菌床しいたけは通年栽培が可能で温度差等による環境の変化も少ないことや、身体的負担も少なく特別なスキルが必要ないこと、天候や災害に強く安定した販路があるといったこと、そして収益性があるということが選んだ理由になります。

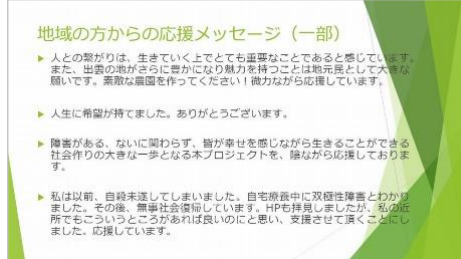
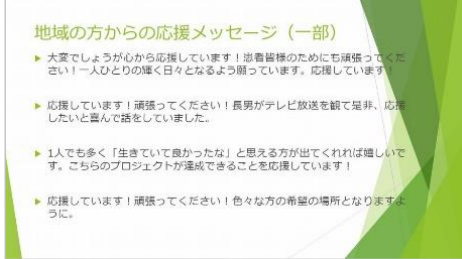
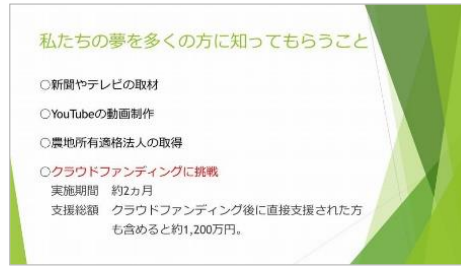
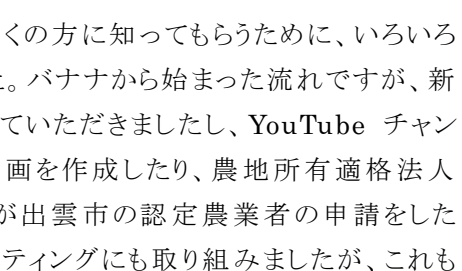
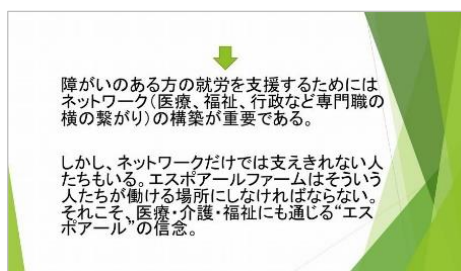
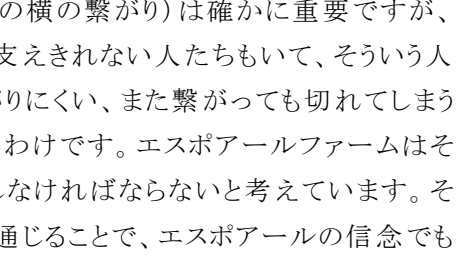
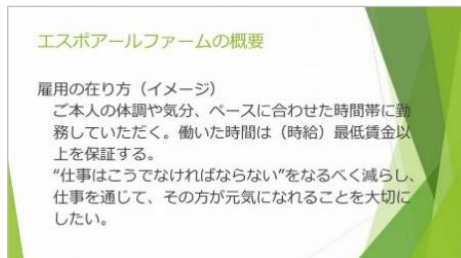
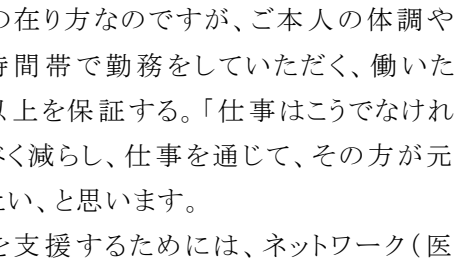
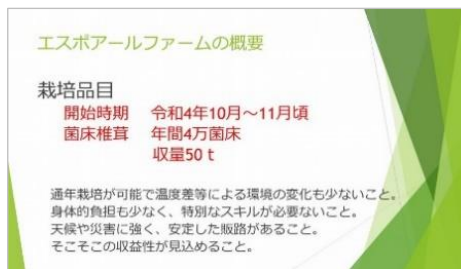
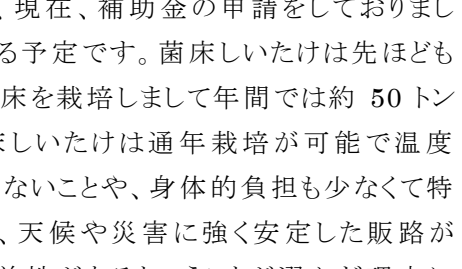
概要としましては、雇用の在り方なのですが、ご本人の体調や気分、ペースに合わせた時間帯で勤務をしていただく、働いた時間はもちろん最低賃金以上を保証する。「仕事はこうでなければならない」ということなるべく減らし、仕事を通じて、その方が元気になれることを大切にしたい、と思っております。

障がいのある方の就労を支援するためには、ネットワーク(医療・福祉・行政など専門職の横の繋がり)は確かに重要ですが、しかしネットワークだけでは支えきれない人たちもいて、そういう人たちはなかなか支援に繋がりにくい、また繋がっても切れてしまうという様なことが沢山起こるわけです。エスポアールファームはその様な人が働ける場所にならなければならないと考えています。それが医療・介護・福祉にも通じることで、エスポアールの信念でもあると思っております。

その様な私たちの夢を多くの方に知ってもらうために、いろいろなことチャレンジしてきました。バナナから始まった流れですが、新聞やテレビの取材も沢山していただきましたし、YouTubeチャンネルを開設し自分たちで動画を作成したり、農地所有適格法人を取得したり、進行中ですが出雲市の認定農業者の申請をしたりしています。クラウドファンディングにも取り組みましたが、これも

RPJNewsを書かせていただきました通りで、沢山支援していただいた経緯があります。

地域の方からも沢山の応援メッセージをいた



だきまして、一つ一つご紹介は出来ませんが、とにかく地域の方々の期待が強くあるということを感じています。

我々は、就労をテーマとした本物の共生社会を目指します。

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」という図がありますが、我々は共に暮らす、働く、というところをテーマにしていますので、そのことを本気で考えるなら、いつも「あなた」と「わたし」でいることが大事なのだと思いました。特にこのエスポアールファームというのは、医療ではなく福祉でもないの、僕が精神保健福祉士でいる必要もないし、ここに来られた方の病気や障害、アセスメントもいらない(アセスメントを前提とせず、あなたとわたしの関係性の中で対話を大事にすること)のではないかな、と思います。「あなた」と「わたし」の関係性の中で「あなた」のことを段々知ったり、「わたし」のことを段々知ってもらったり、人と人というか、その人の今を大事にして、一緒に過ごすことができればと思います。

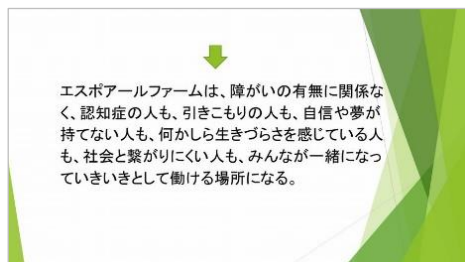
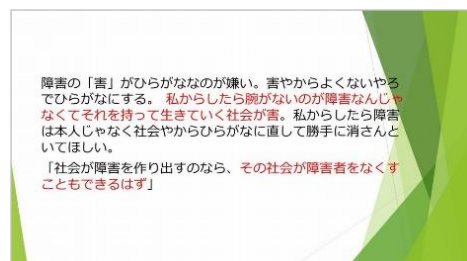
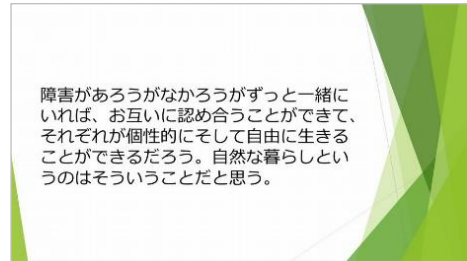
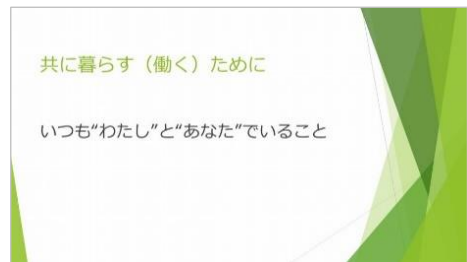
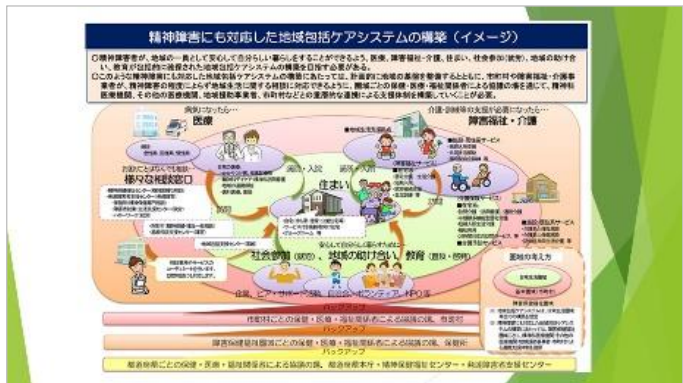
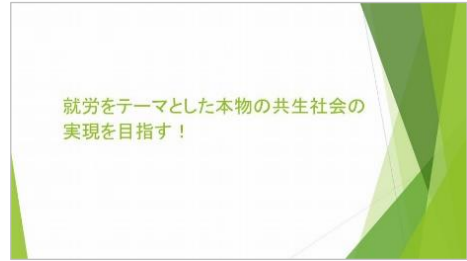
同じような内容なのですが、ピアサポートの全国的なイベントで院長が話された言葉です。「障害があろうがなかろうがずっと一緒にいれば、お互いに認め合うことができ、それぞれが個性的にそして自由に生きることができるだろう。自然な暮らしというのはそういうことだと思う。」これはまた別の方の話ですが、一ノ瀬メイという右腕が短い水泳パラオリンピックがあります、「障害の害がひらがなの嫌。害やから良くないやろ、でひらがなにする。私からしたら腕がないのが障害なんじゃなくて、それを持って生きていく社会が害。」社会が障害を作り出すのなら、その社会が障害者をなくすこともできるはず。」と述べておられます。

私たちエスポアールファームは、「障害の有無に関係なく、認知症の人も、引きこもりの人も、自信や夢が持てない人も、何かしら生きづらさを感じている人も、社会と繋がりにくい人も、皆が一緒になって生き生きとして働ける場所」を創ります。

最後に、先ほども話しましたがエスポアールファームの開始時期は概ね 10 月か11月を予定しています。それ迄の間は出来ることをしようということで、農業用パイプハウスの解体作業を始めました。

主にはブドウ農家さんが多いですが、耕作を放棄されたハウスが沢山あります。クリニックに掲示したり、ポスティングをしたりすると多くの方からご依頼を受けています。これは

仕事としてやっていますが、仕事を繋げるといことを今から始めています。すると地域の方から沢山「暑いのに大変だね」とか「お疲れ様」とかの声をかけていただきますし、我々がエスポアールだと認識している方



たちは、「ここを綺麗にして、また何か始めるの？」と聞いて下さる方もおられたりします。本当に沢山の方と会話をしている、何か繋がっているという実感があり、エスポールファームは、もう始まっているのだと思います。早くハウスが出来て、また皆さんにお披露目できる機会を楽しみにしております。

有り難うございました。



### 3. Passion ～適切に始める～

社会福祉法人 尾道のぞみ会 森川 尚子

尾道の森川と申します。宜しくお願いいたします。

今回の研修にあたり、改めて尾道のぞみ会の創始者が熱い方だったのだと感じましたし、私もその1人だったのだと感じました。そこで今回の題名を「Passion」とさせていただきます。拙い報告ではありますが、お付き合いのほど宜しくお願い申し上げます。

私が所属しております法人は、広島県尾道市にあります。

北は御調の大和地区から南は因島にかけて5ヶ所事業所が点在しております。今回「仕事づくり」がテーマと伺っておりますが、少し当会のことを触れさせて下さい。当会の出発は働きたいという想いから、1985年8月に精神障がい者小規模共同作業所「のぞみ作業所」が誕生しました。その後1995年6月に社会福祉法人となり、働く場だけでなく、住む場や仲間づくりの場が生まれました。今では地域の皆様の協力のもと尾道の各地で「障害のある方の暮らしを支える」という仕事をさせて頂いております。

いよいよ本題なのですが、皆さんこのスライドを見て「何じゃこりゃ？」と感じられた方もおられると思います。前のおふたりのスライドを見せていただき「やってしまったな」とちょっと反省しておりますが、今回使用するスライドは一部フリー素材を使用しております。この写真とメッセージから繋がる、尾道のぞみ会の「まちづくり」「仕事づくり」についてお伝えしていきます。

まず1枚目です。私たち法人の創設者である高垣等氏は、正にこのメッセージ通りの活動をされる方でした。お酒の席で酔われると、良く「敬天愛人」の話をされていました。精神障害のある方の社会的地位の向上、人を愛すということは、障がいがあるとも人は尊重され、尊ばれるべき、愛されるべきだ、愛する心が大切だ、とおっしゃられていました。何事も愛情を持って接しなくてはいけないとおっしゃられていました。「あなたがこの世で見たいと願う変化に、あなた自身になりなさい」今皆様、どの様な想い、イメージ、が湧いてこられたでしょうか。私は、このスライドを見つけた瞬間、驚きと同時にワクワク感がこみ上げてきました。それでこのスライドを使おうと考えて資料を作成しております。



「軒下から落ちる僅かな水滴でも、長い間同じ所に落ち続けると、ついには固い石にも穴をあけてしまうことから、小さな少しずつのことで継続すれば大きな成果を上げることが出来る」この言葉から繋がる創設者の動き、それは先ず発想です。次に行動。発想から行動までのスピードはとにかく早かったです。私が入社して直ぐの年、「なぜ「べてるの家」はそんなに儲けているのか、現地に行ってみよう」当時の授産施設の職員は一路北海道へ行きました。当時地域生活支援センターを開設した初年度ということもあり帯広ケアセンターの視察も一緒に行いました。その後もクリーニングが良いらしいと聞けば鹿児島、安納芋が良いらしいと聞けば大分、一時は村構想もありました。先ずは過疎化している地域にグループホームを作り、そこで動物を飼う。動物を飼うことで生活する方々には役割や使命感、愛情が育まれる。いきなり牛を飼うわけにはいかないから、一先ずヤギを飼おう。そうおっしゃられて早速援護寮の裏でヤギを2頭飼いました。そして創設者が考える動きをされている先進地、こちらについては長野先生からご紹介いただき、袋田の方へ赴きました。援護寮の皆様の1日について教えていただき、農業ヘルパーについてもアイデアをいただきました。「牛を飼った後の動きについても研究せねば」という創設者の思いから県内の畜産高校を始め、地域の方からご紹介をいただき、島根に行き肥育牛に係わる一連の動きについて現地視察をするなど、育てるだけでなく、そこから売る、場合によっては自主製品化、販路開拓についても一連の動きとして検討を深めていきました。その他にも「ドジョウ」を飼い、食堂で柳川鍋をやったらどうか、アサリの稚貝を撒いて売ったりアサリを撒いたことによって観光スポットとして取り組んでみたりしたらどうか、また寺子屋を作りたい、職員に限らず当会を利用されている方々の資格を活かした活動が出来ないものか、など今でいう「子ども食堂」の構想を早い段階からおっしゃられており、一緒に走り回っていたことがとても懐かしいです。沢山あった発想も、未だすそ野を広げるのに時間を要し村構想に未だ辿り着けていません。創設者がイメージしていた活動は、現在石川県にある社会福祉法人佛子園が近いのかなと最近では思い焦がれているところが有ります。



今私たちは、それぞれの地域でストーリーに沿った活動を地道に行っています。現在私が所属している島しょ部では、高齢化率が 65%を超えている過疎地域です。地域の困りごとを起点に、私たちが出来る役割作りを仕事に変え日々活動しています。

現在当会では、働く場として 3 事業所を展開しております。こちらは当会が使用しておりますパンフレットになります。先程も触れましたが、尾道市北部では「やまと」です。当時小学校の統廃合をきっかけに、建物の有効活用についてお声がけをいただき利用が始まりました。そのため事業所の名前は地域名から「やまと」とし、「瑠璃の屋形」の分所として活動を始めましたが、現在は単独事業所として展開しております。こちらでは農作業や市からの委託清掃を主とした活動を行っております。地域の方に畑を貸していただけないだろうかと当時創設者と一緒にお願いに回っていましたが、現在では地域の方々から休耕田の利用についてお話をいただいている状況にあります。



尾道市街地では「瑠璃の屋形」があります。開所当初から行っておりました天然酵母パン・クッキー製造から始まり、家族会の協力のもと食堂運営を行っていました。食堂の機材を有効活用した配食サービス、そのノウハウを活用して他法人の給食委託業務を行うなど一時期は食を主とした作業を展開していましたが、人材確保・採算性の面から徐々に事業を縮小しております。現在は配食サービス・食堂事業は撤退しております。直売市につきましては協力農家の高齢化課題・商品アイテムの確保に課題があります。商品アイテムについては観光関係者からアイデアをいただき、当会でも商品化できないか、職員間で検討を重ねるのですが実現には至っておりません。(食堂開設当初は、運営を家族会にお願いしておりました。

2009年4月1日、「玉の浦家族会」がNPO法人格を取得し、「特定非営利活動法人こころネットよつば会」となり、2009年6月30日に「コーポ楨ヶ峰」を「特定非営利活動法人こころネットよつば会」へ事業譲渡しました。）

尾道市南部ではヴィータ、島しょ部への展開には8年の時間がかかりました。地域の困りごとを地域の方々と一緒に考え取り組み、気兼ねなく立ち寄れる、地域に根差した開かれた事業所を目指して、日々奮闘しています。良くも悪くも昔から続く地域コミュニティが未だまだ強く残っています。2014年に「瑠璃寮」の従たる事業所として生活訓練事業を開始しました。事業実績から、ヴィータにつきましては撤退等も検討しましたが、多機能型事業所として2015年9月から就労継続B型事業を開始し、2020年4月からは就Bの単独事業所として現在に至っています。

「忘れてはならないことを書きなさい」皆様、このメッセージに触れ、どの様な光景や事柄が浮かんできますか？シチュエーションが出てきますでしょうか？私はこの写真とメッセージを拝見したとき、創設者の姿が思い浮かびました。今ではないのですが、当時は創設者のお茶出しから一日が始まったような時代でした。その時「おはようございます。お茶をお持ちしました」と言って理事長室に伺いますと、必ず創設者は書物を読んでいらっしゃるか手紙を書かれていらっしゃるかの何方かでした。「1日に3通は手紙を書くんだ」とおっしゃられておまして、常にハガキをお持ちになられていました。そのため視察先からでもポストを見つけては、「あそこにポストがあったから今日は書いて出せるな、後で頼むな」とお声かけがありました。ここでお伝えしたいのは「ご縁」についてです。創設者はとてもご縁を大切にされる方と私はお見受けしております。当会の職員も参加しておりますので、敢えてご縁について触れさせていただきたいと思えます。「小才は縁に会って縁に気付かず、中才は縁に気付いて縁を生かさず、大才は袖すり合った縁をも生かす」私はこの言葉を胸に日々頭の片隅には仕事づくりであったり、当会のこれからの繋がるアイデアだったりご縁に出会えるチャンスをうかがっています。その時はやはり創設者の顔と言いますか背中をですね、どうしても思い出してしまうような状況があります。

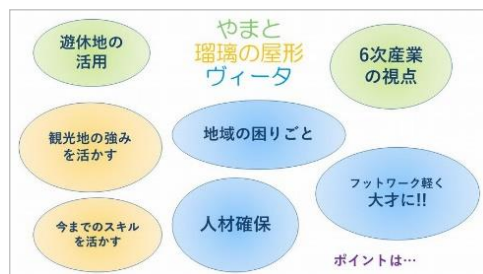
これについても、本当に創設者の姿であったり、活動であったりとかが言葉にしきれないくらい出てきます（先にも述べました「ドジョウ」や「肥育牛」など）。皆様はどの様な光景やイメージをお持ちになられたでしょうか？

夢を語ることは大事な事と思っています。

やるべきことが本当に沢山あります。だけどそれを言葉にして、点を線に繋げ、線を面にし、面を立体化するというのが、とても難しいな、と感じてしまう今日この頃です。

では改めて当会ではどの様な事が言えるでしょう。

スライドの色味なのですが、うちの職員に「「やまと」といったら何色のイメージ？「瑠璃の屋形」といったら何色のイメージ？「ヴィータ」といったら何色のイメージ？教えて・・・」と言いながらパソコンを前にお話をしました。「やまと」といったらやはり緑のイメージかな、「瑠璃の屋形」はオレンジかな、「ヴィータ」はやはり



目の前に海あるし青かな、と色々語ってくれました。それでその色味に合わせた円で課題と思われるポイントを書いています。「やまと」であれば遊休地の活用、これについては畑で麦を作り、麦をパンに活かさないだろうか、パンが学校給食に参入できないか、また6次産業という視点で一連の動きというところで出来ないだろうか、未だまだ繋がっていません。「瑠璃の屋形」ですが観光地の強みを活かす、やはり観光関係の方から、「この様な期間限定の商品を作って」というお声がけも頂いているのですが、なかなか現場との折り合いがつかない、というところが正直あります。折角製造業のノウハウがありますので、そこを活かしたいところではありますが、未だまだ人材確保の方で難しさが出ています。「ヴィータ」につきましては地域の困りごと、というところに焦点を当てて仕事の開拓に繋がっています。

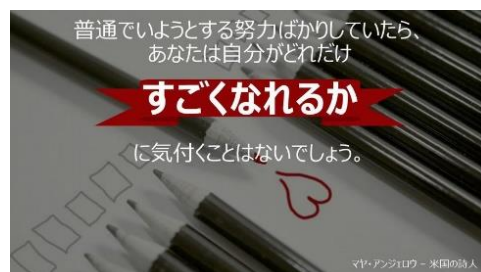
本当に色々叶えていったら「すごくなれる」のだろうなと思います。ただこれがなかなか形にしづらい現状が正直あります。これは何なのだろう。ということが今の状況です。

これに類似したところになります。2014年の7月、実は静岡のリフレッシュセミナーで長野先生が、「全ての分岐点は、やるか、やらないか、やり続けるか、だけだよ。方向性をしっかり見据えて、時間をかけて、仲間を広げて、常に変化しながら前に進めば、何とかなるような気がするよ」とのメッセージをくださいました。私は正にその通りだと思います。

今日久々に皆さんとお会いできてワクワクするような時間が過ごせているのかな、何て思います。

取り留めのないお話になってしまいましたが、これで「尾道のぞみ会」からの報告を終わりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



### \* 事務局からのお知らせ

#### ◎ 第2回 Web セミナーのお知らせ

日時 2022年6月15日(水) 19:00~21:00程度

テーマ 「重度の人をどの様に支えていくか」

##### 1. クロザピンの基礎から

講師 (社福)町にくらす会 志井田 美幸

※ 参加ご希望の方は、メールでご連絡ください。招待状をお送りします。

#### ◎ 2022年度会費のお願い

本年度も是非協会運営にご協力ください。宜しくお願いします。

正会員年会費 10,000円、賛助会員会費 1口1,000円(3口以上希望)

振込先 ゆうちょ銀行 口座記号番号 00110-7-315159

口座名 NPO 法人精神保健福祉交流促進協会



—編集後記— RPJの活動の中で大きな柱のひとつとなる国内の実践報告を紹介できること、とてもうれしく思います。「何をしているか」だけではなく、その根底にある理念や歴史、ストーリーなどを言葉の端々に感じられるニュースになっていると思います。ありがとうございます。

また、6月のオンラインセミナーでは、福祉施設で重度のクロザピン治療を受けられている方々を多数支援されている志井田さんに話題提供いただき、参加者同士で、内容を広げ、深めるような機会にしたいと思っています。ぜひ、ご参加ください。(長野)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会